



釧路川保全と利用の カヌーガイドライン (改訂版)

2022年3月

釧路湿原自然再生協議会

<http://www.hkd.mlit.go.jp/ks/tisui/qgmend0000003ppq.html>

1. ガイドラインの趣旨

釧路湿原自然再生協議会では、2005 年に釧路湿原自然再生全体構想を策定し、流域住民、行政、専門家等が一体となって釧路湿原の保全と再生、さらにワイズユース(賢明な利用)を進めてきました。釧路川・釧路湿原でのアクティビティについては、従来からよく利用されているカヌーに関して、自然環境への影響の緩和や適正な利用の促進を図るため 2004 年に「釧路川保全と利用のカヌーガイドライン」を策定しました。

一方で、近年の体験型観光ニーズの多様化や道東方面への国内外からの観光客の増加に伴い、釧路川・釧路湿原でのカヌーは、愛好家だけでなく観光客が気軽に体験するアクティビティになってきました。

このような状況を踏まえ、釧路川・釧路湿原の自然環境の保全やカヌーの安全利用を両立するための共通ルール・マナーをよりわかりやすく伝える必要性からガイドラインを改訂しました。

そのため、このガイドラインでは、ルール・マナーのほかに釧路湿原の保全の経緯、カヌーの安全対策、楽しみ方、見どころなどを加筆・更新しています。

釧路川・釧路湿原を訪れる多くのカヌー利用者にこのガイドラインの内容を理解して頂くことで、多くのカヌー利用者が釧路川・釧路湿原の大自然に触れ親しみ、安全にカヌーを楽しまれることを願っています。



雄大な自然に溶け込むカヌー航行

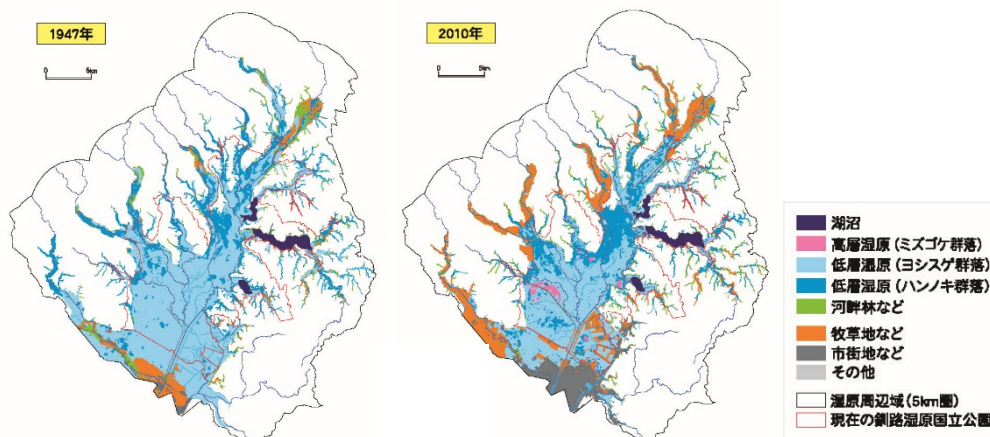
2. 釧路湿原の歴史と自然再生協議会

釧路湿原が直面している最も大きな課題は湿原面積の急激な減少です。1950 年に約 3.2 万 ha あった湿原は 2010 年には約 2.6 万 ha となり、この 60 年間で約 2 割減少しました。周辺から流入した土砂が湿原に堆積しハンノキ林が増加するなどの質的な変化も進行しており、湿原の生態系に大きな影響を与えています。

釧路川では 1880 年代から流域の開発が始まりました。大正 9 年の大洪水を契機に釧路川の治水工事が始まり、1940 年代後半からの森林開発、1960 年代からの農地開発も相まって、流域の人口は 1950 年代に急増しました。釧路湿原はおよそ 6 千年の年月を経て形成されてきたといわれていますが、このような湿原周辺の変化が湿原の急激な変化につながったと考えられました。

このようななか釧路湿原の自然環境を保全・回復させる取組みが始まり、1970 年代からの湿原保護運動の高まりもあり釧路湿原は 1980 年には国内最初のラムサール条約登録湿地となり、1987 年には釧路湿原国立公園として指定されました。

さらに 2003 年に釧路湿原自然再生協議会(以下、協議会)が発足し、釧路湿原の自然再生や利活用を地域の協働で行う取組みが始められました。協議会は個人、団体、関係行政機関らからなり、自然再生の目標を達成するための具体的な事業の進め方を議論してきました。今後も協議会では湿原の保全と利用促進を両立させるよう取り組んでいきます。



釧路湿原
自然再生協議会
ホームページ



釧路湿原の変化(かつてはヨシ・スゲ群落が大半だったが縁辺部からハンノキ林が広がってきた)

3. 釧路川・釧路湿原について

釧路川は屈斜路湖を発し数々の支川が合流したのち釧路湿原の中に入り、湿原を大きく蛇行しながら流れ、釧路市街を貫流して太平洋に注ぐ、屈斜路湖から河口までの距離約 96.8 km、流域面積約 2,510 km²の一級河川です。

釧路川には多くの野生生物が生息し、釧路湿原では特に国指定特別天然記念物であるタンチョウや、絶滅危惧種で日本最大の淡水魚イトウなどの希少種が生息するように、湿原特有の生態系が形成されています。

釧路湿原自体も国の天然記念物であり国立公園にも指定されています。また湿原内にある塘路湖などはかつて海であったときの名残の海跡湖であり、多くの渡り鳥の飛来地になるなど貴重な湖沼環境となっています。

また釧路川は、屈斜路湖から河口まで堰堤などの横断工作物がなく、上流部の樹林間の流れや下流の湿原景観まで豊かな自然を通して体感できることもあり、国内外から愛好家が集うカヌーのメッカとなっています。



湿原の中を蛇行する釧路川

～ 四季をとoshた釧路湿原の魅力 ～

春の魅力

春の釧路湿原は、雪解け水により釧路川の水位が高くなるため、カヌー上から湿原を遠くまで見通せられることから、広大な湿原の景観を楽しむことが特徴です。

次々と芽吹く新緑の中、厳しい冬の寒さを乗り越えた動物たちが活発に活動しはじめるなど、一年の中で最も生命力が感じられる季節です。カヌーからエゾヤマザクラを望む花見ができる場所もあります。

夏の魅力

夏の釧路湿原は、植物が色濃く生い茂り、川全体が緑に包まれます。夏であっても川面から吹く冷涼な風を感じながら至福の時間を過ごすことができ、運が良ければタンチョウやエゾシカに出会うことができます。早朝は霧に包まれることも多く、幻想的な景色が非日常へと誘ってくれます。

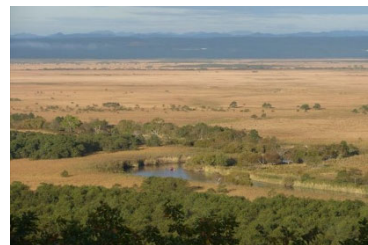
秋の魅力

秋、釧路湿原は夏の緑色から秋模様へと一変します。上流では紅葉が彩り、湿原では一面黄金色のヨシ原が絶景を生み出します。エゾシカの繁殖期にあたり、高らかな鳴き声が辺りに響き渡ります。

冬の魅力

冬の釧路湿原は、静寂さが最大の特徴です。霧氷の花が咲く中、ゆったりとカヌーを楽しむことで、いつしか自然の中に溶け込んでいく優雅な時間を過ごすことができます。

一面の銀世界を進む極寒のカヌーは、冬でしか味わえない特別な水辺空間を体感できます。



写真提供：(株)釧路マーシュ&リバー

4. 釧路湿原での野生生物に対する配慮

【配慮の基本】

- 野生生物を見かけた時は、騒がず、距離を保ったまま、動物が去るのを待ちましょう。
- 野生生物への餌やりは厳禁です。動物本来の習性に影響を与えます。
- 動物の写真を撮影する場合は、動物を追い回したり、フラッシュで驚かせたりしないようにしましょう。
- 川は河岸、川底等のすべてが生き物の生息場所です。そのままの状態にしておきましょう。

【鳥類への配慮】

- ヒナを連れているタンチョウなどを見かけたときは、距離を置くなど最大限の注意を払いましょう。写真を撮るために追い回すのはもってのほかです。
- タンチョウのヒナの成長に重要な期間は、4月頃から8月頃までの約5ヶ月間です。特に湿原区域を含む下流域では配慮してカヌーを航行させましょう。
- カヌー航行中に営巣中のタンチョウを見かけても、自然体でそのまま航行しましょう。
- 釧路川には、タンチョウの他にもマガモ、カワアイサ、カワセミ、オシドリなどの水鳥が多数生息していますので、同様に配慮しましょう。



タンチョウ

【主な鳥類の配慮すべき時期(繁殖期)】

種名	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
タンチョウ								
マガモ								
カワアイサ								
カワセミ								
オシドリ								

【魚類への配慮】

- 河岸や水際の植生は魚類等の生息場になっているため、改変したり掻き乱さない様に配慮しましょう。

【その他の留意事項】

- ウチダザリガニは「特定外来生物」に指定されており、生きたまま個体や卵などを持ち帰ったり保管することは外来生物法によって禁止されています。
- キタキツネは、エキノコックスという寄生虫を持っているため、感染予防としてキタキツネがいる場所に生えている野生の果実等を食べることは避け、触ったら手洗いを励行しましょう。
- エゾシカは、繁殖期の10～11月頃に動きが活発化し、オスは攻撃的になるため危険です。



キタキツネ



エゾシカ

5. カヌーのルール・マナー

釧路湿原は日本最大の湿原で、日本で最初にラムサール条約湿地に登録されました。また、手つかずの自然が残る湿原の中央部は、天然記念物、鳥獣保護区、国立公園特別保護地区として厳重に保護されています。

カヌー利用の際にも、釧路川や釧路湿原の自然環境を将来に渡って保全していくことの協力をお願いします。

◇釧路湿原を守るためのルール・マナーの基本

- 特別保護地区や特別地域では、許可を受けない植物採取、植物損傷行為は禁止されています。
- 特別保護地区や特別地域では、エンジンやモーター等の動力によって移動する船等を許可なく使用することは禁止されています。
- これらに違反すると自然公園法の罰則が適用され、6ヶ月以下の懲役又は50万円以下の罰金に処せられることがあります。
- 定められたカヌー発着場以外での上陸、特別保護地区への侵入は、外来植物の侵入の誘発など貴重な自然環境を改変する恐れがあるためやめましょう。
- むやみな上陸を避けるためにも、トイレはカヌーの航行前に済ませましょう。
- ゴミは必ず持ち帰って下さい。
- 駐車場以外の場所での駐車は、地域住民へ迷惑をかけたり、動植物に影響を与えたりしますのでやめましょう。

【禁止行為】



植物の採取



植物の損傷



動力船の使用



ゴミのポイ捨て

6. カヌーを安全に楽しむために

釧路川は、大自然の中で非日常を感じられる魅力がある一方で、一般道からのアクセスは困難でどこにいるのか所在を把握しづらいことから、事故が発生した場合の救助も難しい特徴があります。

上級者でも安全のためには個々の意識が重要です。また、カヌー初心者や釧路川が初めての方には、釧路川に精通したカヌーガイドを利用することも有効です。

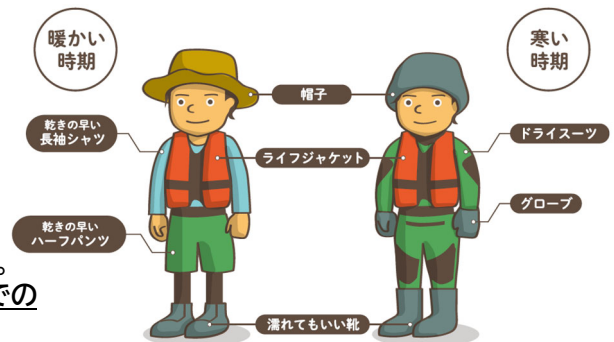
◇安全利用の基本事項

【装備・事前準備】

- ライフジャケット(浮力体)は必須です。
- 水温・気温に適したウェアを身につけましょう。
- 着替えやタオルなどを持っておきましょう。
- 携帯電話等は防水袋に入れるなど対策を施しましょう。

【危険行為の回避】

- 自分の技量を理解したうえで航行区間を設定しましょう。
- 事故が起こっても発見しづらいため、できるだけ単独でのカヌー利用は避けましょう。
- 増水時、強風時など悪条件下での航行はやめましょう。
- この地域の天候の特徴や川の特性などを事前に調べて理解しておきましょう。



◇釧路川の特徴と注意事項

- 釧路川は夏でも水温が低く、霧が発生した場合は気温が急激に下がります。
- 万が一転覆した場合、急激に体温が奪われます。専用ウェアを着用するか、着替えを持っておくなど準備をしましょう。
- 湖沼は風が強いと波浪が高くなり、バランスを崩しやすいため注意が必要です。
- 上流域は川幅が狭くて流れが速く、水面下に見えない倒木が多くあります。倒木に乗り上げて転覆しないよう注意が必要です。
- 中流域には護岸ブロックなど人工構造物が多くあります。水面下で見えない場合もあり、特に水際近くにカヌーが寄ったときは注意が必要です。
- 湿原域は川が蛇行し、湾曲部の流れは複雑です。また風が通りやすく突風もあります。
- 河口域は、海からの波浪の影響を受けバランスを崩しやすくなります。
- 河川・湖沼では携帯電話が繋がりにくい場所が多くあります。



カヌーに乗る前のチェックシート

ライフジャケット(浮力体)を着用しましたか？	既設の駐車場を利用していますか？
気象情報(特に風、気温)は確認しましたか？	動力船(禁止行為)を使用していないですか？
水温・気温に適した専用ウェアを着用していますか？	カヌー発着場所は確認しましたか？
カヌーポートを基点とした航行計画を立てましたか？	着替えやタオルなどの装備は十分ですか？
過度な積載はしていませんか？	トイレは済ませましたか？
携帯電話等の防水対策を施しましたか？	

◇お役立ち情報

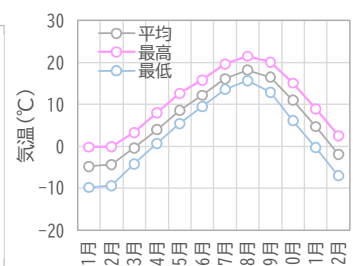
天気予報
【気象庁】



気象警報・注意報
【気象庁】



河川水位等
【国土交通省／川の防災情報】



7. 釧路川でのカヌーの楽しみ方

釧路川でのカヌーの魅力は、豊かな自然に囲まれ車の騒音などが届かない大自然の中で、水の音や鳥の声、風の音などに耳をかたむけ、多くの野生動物との出会いを通して、自然をより身近に感じられることです。

また北海道には、アウトドア活動に対する経験や知識が求められる「北海道アウトドアガイド」の資格制度があります。こうした資格を持つガイドとともにカヌーを楽しむと釧路川・釧路湿原の魅力をさらに満喫できるでしょう。

北海道アウトドア
資格制度の
ホームページ



■人気のカヌーコース

ここでは違った魅力を感じられる上流域と湿原域でのコースを紹介します。このほかでもカヌーポート、カヌー発着可能箇所を利用して、自分にあったコース設定をしてカヌーを楽しむと良いでしょう。運が良ければタンチョウ、オジロワシ、オオワシ、エゾシカ、キタキツネなど野生動物に出会えるかもしれません。

A 【上流域：^{くつしやろこはん}屈斜路湖畔～^{びるわぼし}美留和橋】

●延長約 7km ●所要時間の目安 1 時間 30 分～2 時間

釧路川の起点となる屈斜路湖畔から釧路川本川を下り美留和橋に至る区間です。屈斜路湖でもカヌーができます。水の透明度は高く、細かな蛇行の繰り返しや河川の両岸からせり出す倒木が釧路川の源流風景を象徴しています。釧路川の中では比較的流れが速い区間のため、カヌーに慣れていない方は経験者やガイドと一緒に下ることをお勧めします。



写真提供: SOMOKUYA

B 【湿原域：^{ごじつこく}五十石～^{かやぬま}茅沼】

●延長約 8km ●所要時間の目安 1 時間 30 分～2 時間

五十石橋をスタートし、河川改修により直線化した区間や自然再生事業により蛇行を復元した区間を通り茅沼に至るコースです。途中にいくつもの中州や倒木などの障害物が点在し、コース選択に気を付けながらカヌーの操縦を楽しむことができるコースです。



写真提供: (株)釧路マーシュ&リバー

C 【湿原域：^{どうろこ}塘路湖～^{ほそおか}細岡】

●延長約 10km ●所要時間の目安 1 時間 30 分～2 時間

釧路湿原最大の湖である塘路湖でもカヌーを楽しむことができ、アレキナイ川から釧路川に入り、釧路川本川を下って細岡カヌーポートに至る区間です。広大な湖、細い支流、雄大な釧路川本川と異なるロケーションを一度に堪能できるのが最大の魅力です。

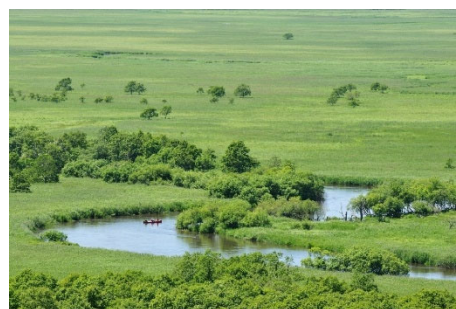


写真提供: 釧路開発建設部

D 【湿原域：^{ほそおか}細岡～^{きゅういけぼつ}旧岩保木水門】

●延長約 8km ●所要時間の目安 1 時間 30 分～2 時間

細岡カヌーポートをスタートし、釧路湿原を蛇行して流れる釧路川をゆったりと下り、歴史的な建造物として親しまれている旧岩保木水門に至るコースです。周囲には広大な湿原にヨシが生い茂り、最も釧路湿原らしさを感じられるコースの一つです。



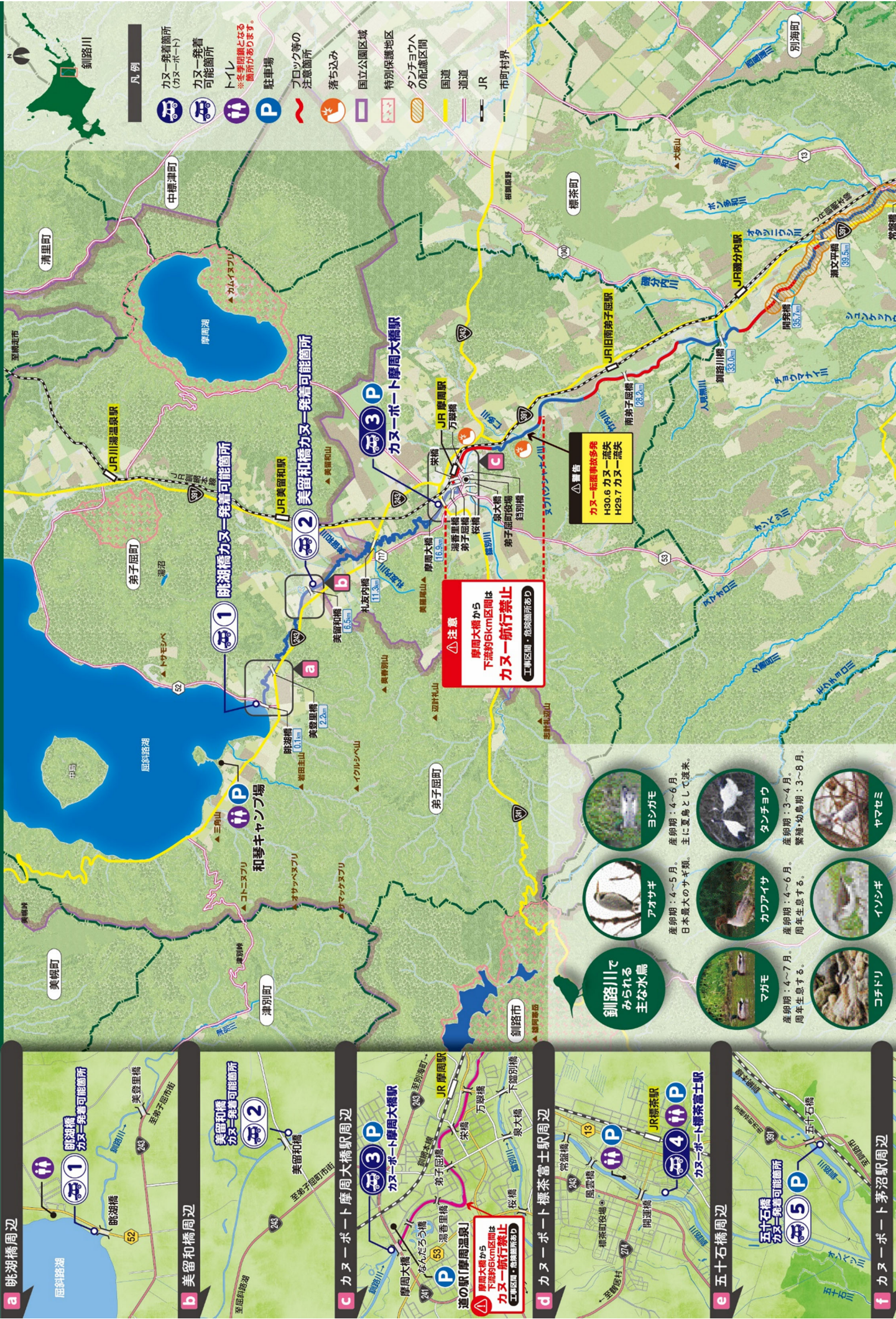
写真提供: 釧路開発建設部

■カヌーコースマップ



カヌー体験事業者
／北海道釧路総合振興局

釧路川保全とカヌー利用の情報マップ



8.今後の取組み方針

釧路湿原自然再生協議会地域づくり小委員会では、釧路川や釧路湿原の自然環境の保全のため、このガイドラインの内容を多くのカヌー利用者や関係者にご理解・ご協力頂けるよう、普及・啓発活動や関係者とのコミュニケーションの推進に努めます。

また、ラムサール条約の目的に基づき、湿原の保全・再生、ワイズユース(賢明な利用)、交流・学習について地域の方々、関係者との意見交換や調査・検討を重ねていながら、今後も自然再生事業に取り組んでいきます。

4つの基本理念

【ワイズユース】



湿原ウォーキング

釧路川・釧路湿原の自然環境を将来にわたり保全しながら、積極的に利活用していきます。

【野生生物の生息・生育環境の保全】



雪裡川のタンチョウ

釧路川・釧路湿原にはたくさんの野生生物が生息し、今ある環境に依存して生きる種もあります。現在の環境を大切に将来にわたって釧路川・釧路湿原を保全していきます。

【ルール・マナーを守る】



細岡展望台

釧路川・釧路湿原は誰もが利用できる公共空間です。利用者が互いの行動を尊重して、みんなが自然を利用できるルール・マナーを醸成していきます。

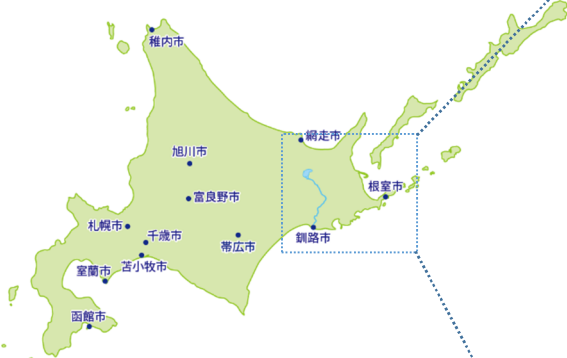
【安全に対する配慮】



安全なカヌー航行

釧路川・釧路湿原では思いがけないトラブルに見舞われる可能性もあります。それぞれが自然の中のことを十分意識し、責任を持った行動をしましょう。

■釧路川・釧路湿原へのアクセス



(車での所要時間)

目的地	女満別空港	中標津空港	釧路空港
屈斜路湖	約1時間	約2時間	約1時間30分
塘路湖	約2時間	約1時間30分	約1時間
釧路湿原(細岡)	約2時間	約1時間30分	約45分



問い合わせ先

釧路湿原自然再生協議会
地域づくり小委員会運営事務局
●国土交通省北海道開発局釧路開発建設部治水課
●環境省釧路自然環境事務所
●北海道釧路総合振興局産業振興部商工労働観光課

【所在地】〒085-8551 釧路市幸町 10 丁目 3 番地

【TEL】0154-24-7250(釧路開発建設部治水課)

【ホームページアドレス】

<http://www.hkd.mlit.go.jp/ks/tisui/qgmend0000003ppq.html>

【メール】hkd-ks-river@mlit.go.jp

川へ行こう！
川を楽しもう！



かわたび
ぼっかいどう

